

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.112

AA 30周年記念集会に向けた思い
— 神様に守られながら、生かされている日々 —

AAの3つの遺産、回復、一体性・サービス(奉仕)についてはよく聞く言葉ですが、自分自身が回復していくために内面的な問題を12のステップによって実行し、グループのメンバーとして一緒に活動して行くためには12の伝統を、そしてAAのあらゆる奉仕のため、広報活動をして行くために、社会一般との共存、共生をしていくためには、12の概念に沿った広報活動や、サービス活動が大切であり重要なのだとわかりました。

時として「正しくない」も、「正しい」も、すべて正しいのであるというような考えにさせられました、それは自分と立場の違う人々が自由に話し合い、お互いを尊重して、自らが良心の名の下で答えをだすからではないでしょうか。少数の意見や考え方であれ、それが尊重されるからだと思えます。

家族の言うことに耳を貸さず、周りの人たちはもちろん、医者やカウンセラーの言うことにさえ耳を傾けないほど私の強かった自分が、どうしてなのかわからないけれど、12のステップの中で無力を認めて、神を信じてすべてを神に委ねております。

アルコール依存症(アルコール依存症)がスピリチュアル(霊的)な病気だと気づくと同時に、世界中で多くのメンバーがこの基盤の上でAAのプログラムによって回復していることを知り、この3つの遺産こそがAAの引き付ける魅力なのだと思います。

AAの明かりが日本に灯り30年を迎えて、更に将来に向けて広がってゆくとき、この30周年記念集会に多くの方が参加し、ともに喜びを分かち合っていたきたいと思えます。

大きな集会を通じてきっと何かを学ばせていただけるのではないのでしょうか。飲まないでいる自分に感謝が生まれ、何か一つの奇跡が起きてくるような気がします。

不思議な力に身を任せ、多くの仲間たちと希望について大いに語り合いたいです。自分は今からどのようなことをして、どんな方向へ、どのような人間になりたいか、グループはどんなことをして、どんなサービスができるか、又グループが成長して行くには、どんなことをすればよいのか、地区がどんなことで成長できるのか、これらのことを考えながら希望のメッセージが更に多くのまだ苦しんでいるアルコール依存症(アルコール依存症)の方に伝わっていくために何ができるのか模索するいい機会であると思えます。

自分自身はこの30周年記念集会でオールドタイマーによるスピーチを楽しみにいたしております。

テーマが希望であり、まさしく先に行く仲間も、今日の自分達と同じ道を通して今日があるのだと思えます。人それぞれに目標を決めてその為に努力をすることが真の意味での生き方を変えることに繋がるのだと思えます。

素晴らしい仲間のスピーチに耳を傾けることによって何か気づかされ、自分自身の思いの尺度を変えることこそが人生を好転させる原動力になる気持ちになります。

この30周年記念集会を通じてもたらされる、不思議な力、ハイヤー・パワーが皆様に必ず訪れることを念じると同時に当日会場でお会いできることを楽しみにいたしております。

AA九州・沖縄地域 大分植田G ゆう

AA日本30周年記念集会開催にあたって思うこと

確か、4年前になりますか、九州・沖縄地域の評議員が候補地に九州を、と名乗りを上げたと言ったのが、それからまもなく仲間から「おい、地区のオープンミーティングの前日に30周年の準備委員会を開くらしいから会場を手配してくれ!」と電話が、バタバタと1回目の準備委員会が開かれたのが福岡の篠栗でした。まだお酒をやめることが出来て2年目を迎えたばかりで、地域、地区のことも何がなんだかかわからないときの出来事でした。でも思い出します、地域の先輩たちの生き生きとした姿を。特に今は亡き福岡の先輩が作ったプログラム、ポスターのたたき台はその素早さに驚きました。2回目の準備委員会は熊本「天草」のラウンドアップの開催中でした。委員会には常任理事、WSM評議員、JSOスタッフの参加があったことを、あらためて2回目の議事録を見ながら思い出しています。その頃でもまだ私には何が起きているのか、何をやろうとしているのかわかりませんでした。漠然と東京、日比谷公会堂で行われた25周年に参加した時に感じた、AAのすごさというか? 仲間のパワーに驚かされたことが思い出される位で全く人ごとでした。まさか開催地が福岡になるうとは、...福岡と聞いたときには、なんてことをしてくれたのだという思いの方が先に浮かびました。まだ福岡にはそんなことが出来る余裕などないし、これ以上忙しくしないでくれ、という私の勝手な思いが出てきていたのですね。まもなく九州・沖縄地域で第1回30周年実行委員会が開催となり、実行委員長を始め、色々な役割「適材適所」をみんなで話し合って決めました。以来、もう16回目の実行委員会の運びとなっています。福岡地区では「会場設営」という役割を受けました。小実行委員会を月1回の割合で開催し、地元は何が出来るのか、何をしなければいけないのか、を話し合っています。昨年は、様々なイベントに参加して、30周年の呼びかけをしようということで韓国、北海道、九州など各地へ、仲間が声を掛け合って参加し、今年6月には、カナダのトロントに参加して、「最低?人くらいは参加してもらえよう、呼びかけをしてるよ!!」と、意気盛んです。もう福岡では、「まだそんなことが出来る人材がいらないじゃないか?」という最初の不安は消えてしまうほどになりました。仲間の成長におどろかされ、新しい仲間、古い仲間と共に、福岡30周年集会にやって来る仲間、関係者にどうやったら喜んでもらえるのか、楽しんでもらえるのかを、みんなで考えています。沖縄の仲間も、メダルやバンド演奏など協力してくれています。JSOのスタッフ、常任理事の皆さんも、何度も九州に足を運んでくれました。九州・沖縄の仲間みんな、皆さんを温かく楽しくお迎えしたい

と思っています。「こげん博多ちゅうとは元気のある町とは思わなかったばい・美人や色男が多いし、食いもんも旨かばい・」観光者から、こんな声も聞かれますよ・

福岡小実行委員「設営」 畑川

A A 日本 30 周年記念集會に向けて

私の名前はジャック、埼玉県出身のアルコールクです。飲酒の問題で 1983 年に 2 度目の入院ということになり、兄弟が私のアルコール問題に対する治療施設の情報を探し回りました。苦労の末に自助グループでの治療を探りいれている東京の病院を探し出し、いやがる私の意思とは関係なしに無理やり入院をさせられました。病院では治療の一貫として、毎晩の A A ミーティングへの参加出席が義務でした。

おかげさまで私の場合、4 ヶ月の入院期間中の A A ミーティング出席の習慣が幸いしてか、アフターケア - 中も病院に顔を出してから、A A ミーティングに出席するようになりました。思えば、ステップ 1 を認めなければならぬことと、離婚に至ってしまった結果、埼玉から東京へ出てきて、たった一人のアパート生活を始めること、この現実が一度に降りかかり、寂しさを紛らわすためにも A A ミーティングに毎晩出席していたことが、今に至ったのでしょう。当時はまだまだ日本各地に A A が行き渡っていない時代でしたが、幸運にも私は A A プログラムに出会うことができ、多くの仲間を支えられ、おかげで今の生活があると思います。新しい生き方を始められたことに感謝しています。

現在は多くの A A メンバーのたゆみないサービス活動と、関係機関の協力と広い心による理解のもとに、A A メッセージ (A A の愛の手) が日本全国に展開されています。多くの苦しんでいる人たちが、日本各地で開かれている A A ミーティングの中で救われ続けていると思われます。

さて、ご承知だと思いますが、A A 日本 30 周年記念集會が今秋 9 月 2、3、4 日福岡国際会議場で開催されます。日本の A A は東京蒲田で日本語によるステップミーティングが初めて開かれた 1975 年 3 月を起点と定め、最初の全国的規模の呼びかけで A A 日本 10 周年記念集會を東京・千代田公会堂で開催しました。私が不安の中でソプラエティを始めて 1 年あまりの時でした。会場狭しと溢れるほどの仲間の中で、共にこの集會に参加した共同体の一員である誇りと、安心感や喜びを得ました。

A A にはそれまで 2 つの流れがありましたが、この 10 周年を機の一つになって一体性をますます深めていきました。海外からの参加者も含めたこの集會は、その後の A A の飛躍的な発展の始まりだったと思います。

A A 日本 15 周年記念集會は大阪・国際交流センターで 800 人あまりの参加者のもとで開催されました。壇上に共同体のシンボル、正三角形のマークが大きく飾られたこと、感慨深く思い起こされます。当時、私は始まったばかりの G S M (ゼネラルサービスミーティング) の評議員としてサービスをさせていただいていましたが、この 15 周年が現在の全体サービス機構になってゆくための大きな原動力になったと思っています。

A A 日本 20 周年記念集會は埼玉・大宮ソニックシティで 2000 人規模の大集會になりました。私は記念集會実行委員会の副委員長と総司会の役割をさせていただきました。各地のメンバーの協力で「A A 20 年の歩み - いくたびもの出会いを重ねて」が発刊できたこと、300 名の参加があった専門家ミーティング、そして全国代議員集會が開かれて、全体サービス・常任理事会、評議会機構が決められたこ

と、などなどたくさんの熱気にあふれた光景が思い出され、全国から集まった仲間たちと分かち合った様々な出来事が鮮明に脳裏に浮かびます。

そして、あの感動から 10 年、A A 日本 30 周年記念集會がいよいよ福岡で開催されようとしています。それぞれのメンバーがこの集會の意義をどのように受け止めるのかもう一度考えてみようではありませんか。

草創期より、A A プログラムを愛し、ひたむきな情熱と心意気で全国にメッセージを運んでくれた仲間がいたからこそ、今の私たちがいると思います。12 のステップ、12 の伝統を活用したプログラムに次々と新しい仲間が惹かれ、A A ミーティングが様々な場所で開かれ、川が流れてゆくように A A は段々と広く太くなっていきました。

きっと福岡にやって来るだろう草創期のメンバーからは昔の思い出や苦労した話が聞けると思います。また一緒に歩いた各地の仲間との久しぶりの対面も楽しみの一つでしょう。「A A の宝もの」である新しい仲間たちは、日本全国、世界中から集まってくる様々な経験を分かち合ってもらえることができると思います。きっとこの心強い一体感 (仲間意識) からテーマの「希望」を感じることで、そして将来に向けた自分の姿を感じることができると思います。アルコール依存症からの回復とより質の高い生き方を目指してゆく A A のプログラムの効果が証明されていることを実感してもらえないでしょうか。この経験をまだ苦しんでいる人たちへ伝え、手渡して行く大きな力になると思います。

新しいメンバーや関係機関の方々をひきつける魅力は A A プログラムが証明した回復の実績と、それぞれの個人の人間の魅力にあると思います。

私たちが現在ソプラエティの継続が成功している大きな要因の一つとして関係機関、専門家の皆さまの協力とご理解があったことを忘れてはならないと思います。こうして 30 年の歩みを続けられたことを感謝し、A A の周りのたくさんの友人たちに、ぜひ、それぞれの回復の姿を見ていただくではありませんか。そして、さらなる信頼関係を築いてゆくことができればと思っています。自分がお世話になった人と一緒に福岡の集會に参加してみるのとはとても素敵なことだと思います。世界中に A A の愛の手が届けられてゆく中で A A の友人たちの理解が深まれば深まるほど、A A が社会資源として認識され、活用できるのだろうと考えます。

この機会に一人でも多くの人に参加され、「経験と力と希望」の分かち合いの中で喜びと感謝を共有できれば、必ず新しい活動のエネルギーとなると信じています。

日本国内へのメッセージのみならず、アジアの苦しんでいる人たちにも A A の愛の手を届けてゆく責任も感じています。自分たちがいただいた贈り物を次に伝えて行くこと、「謙遜と責任」を忘れずに続けてゆきたいと思います。

感謝と喜びに満ちあふれた A A 日本 30 周年記念集會になりますよう祈っています。

J A C K

私の A A 日本 20 周年

20 周年記念集會は地域集會の副議長に選出されたのをきっかけにして実行委員会の書記を途中からやらせてもらいました。2 年前から本格的な準備がスタート、各委員会が活発に動き始め、メイン司会者はそれ以前の G S M でいち早く決定されていたようです。

当日の私の役割は舞台のそでで仲間のスピーチを録音することでした。亡くなったピーター神父を除いて日本の A A が歩き始めたところからの先き行く仲間が全員勢ぞろいした感じ

です。アメリカのAAイベントでは録音されたテープがイベントの当日に編集されて発売されているということの小耳にはさんだことがありテープ吹き込みの当初の計画では、ひとつのテープに編集できたらと思っていました。でも、出来上がったテープを聴いた時編集は素人では無理なことが解りそのままお蔵入りとなっています。

今も、懐かしい情景として残っていること

第3回全国代議員集会

常任理事会の設置が20周年のひとつの目玉でした。鹿児島島のメンバーが議長で全国から集まった100前後の代議員を前に「常任理事会設置がイエスかノーかその一点だけを採決してほしい」と力説していました。周知のとおり、そこで常任理事会の設置が圧倒的多数で表決され、常任理事の選挙、第1回全国評議会の開催と繋がっていきました。

「いくたびもの出会いを重ねて」AA日本20年史

この編集は前JSO所長の山本さんが中心となってまとめられました。出来るのか、20周年に間に合うのか心配しましたが、当日会場での納本でした。オープニングで山本さんが「日本のAAは誰が始めたとか、誰が大きくしたとかそういう見方もあるが、私は日本のAAは仲間のひとり、ひとりがいくたびもの出会いを重ねたことが原動力となっていると思い、それをタイトルとしました」そうだと思います。

1年未満のAAメンバー

最後のセレモニーで1年未満のメンバーに舞台上上がってもらい記念のメダルを差し上げました。約7~8名のメンバーと司会者の後から壇上で握手させてもらいました。今日のニューカマーは明日のオールドタイマーです。10年のバースデイをもう終わったと思いますが。

ミニーさんのスピーチ

私がAAで会いたかった、ミーティングで話を聞きたかった二人の神父さんがいました。一人は亡くなったピーター神父、もう一人はミニーさんです。二人とも、私がAAに繋がる少しまえにいなくなっていました。ミニーさんは中間施設で写真を見ていたので顔は知っていましたが、会うのは舞台のそでが初めてでした。以下はミニーさんのスピーチを抜粋しました。

「アメリカに返されてAAのプログラムで救われた。日本でアルコール中毒になったのだからと日本に戻されました。大宮西口のそばでものすごく古い建物で施設を始めた。1年間、20人ぐらいの同じメンバーで遠くは八王子まで歩いた。寒かった冬の記憶がある。2~3年経つと新しい仲間も増えてきた。南多摩で米軍の基地を借りて始めての集まりをやった、その時の参加者はアメリカ人が100名で日本のメンバーは30人位だった。今日は1200人ほどの人が参加しており、外人はごく少人数だと聞いています。このように日本のメンバーが増えたのはプログラムの力ということに間違いありません。どうぞ、このプログラムを忘れないで下さい。どんな人でも回復します。12ステップのなかに素晴らしいものがあります。」と12ステップの中にある宝物を強調していました。

長野県・小泉

今、AA日本20周年記念集会を思う

AA日本30周年記念集会in福岡が近づいてきた。そこで20周年を振り返ってみたい。

20周年は過去5年おきの記念集会の中で、極めて印象に残る集会であった。JSO職員として、会場選定から、毎週

の委員会の設定やイベント業者との折衝といったこともやりがいのある仕事であったが、過去の10周年と15周年にない事柄が二つあった。

一つは懸案のアジア・オセアニアゾーンミーティングの第一回が20周年前日に開催されたことであった。ニュージーランドから数人の仲間が駆けつけてくれ、アジアのメンバーやニューヨークGSOからも参加しての会合であった。会議終了後20周年の前夜祭へと時はスムーズに流れていった。

二つめはAA日本常任理事会の設置の可否を決める全国代議員集会が開催されたことである。それは上記アジア・オセアニアゾーンミーティングのメンバーも出席しての国際的な雰囲気の中で進められた。

20周年は日本AAにとって、一体何であったのか。様々な側面と見方があると思うが、私はその一側面をこう思う。

日本AAの舵取りはJSOの運営面ではオフィス幹事会という、初期のメンバーで構成された自己叙任の幹事達が行っていた。1988年のニューヨークで行われたワールドサービスマーケティングのあと、日本でもゼネラルサービスミーティングという機構を作ろうということになって、日本AAの舵取りはその集団に任せられ、JSOの運営もオフィス運営委員会に委ねられていった。しかし、しっかりした約束事のもとに、日本AAの執行をAA日本常任理事会に委ねようと全国グループの良心がゴーサインを出したのが、この20周年であったと思う。

それから10年、日本ゼネラルサービスミーティングも日本評議会に発展して、日本AA常任理事会と車の両輪となって現在に至る。

その20周年の時にアルコールのない人生を始めた仲間は、もう10年のソプラエティを謳歌していることになる。

私はかつてAAが爆発的に成長する時を夢見てその時その時を生きていた。そういう時期があったとすれば、それは10周年前後の頃であったであろうか。

先日、私は、制度改革小委員会なるAAの会合に出席する機会を与えられた。JSOを退職して10年弱たったので、初めて会う仲間もおられた。以前にもまして細部にわたって正確な知識のもとに議論が続けられていった。しかも全国から集まった委員間で、その後の議論を進めていくためには、Eメールを交換する方法が機能的に行われていった。

15年前の15周年ではパソコンを使うかどうかでもめて、結局FAXを多用して切り抜けた。しかも私を含めて関わった3人のメンバーのうち2人は既に他界された。今昔の感を痛感する。

そこで話を戻して、AAの規模が思ったほどには伸びていないことについて考えてみたい。AAはもう一人のアルコールが飲まなくなることを手助けすることだけである。そういう意味では規模が大きくなることだけが今のAAの願いになる。しかしその願いが先にくると嘆きになりやすい。そこで私は、もう一人の仲間メッセージを伝えていこうという地味な努力、今のAAの機構をよりしっかりしたものにしていこうという今日一日の努力、今日、ステップを踏んでいこうという小さな努力が日本のAAをよりAAそのものに近づけていくものと信じている。

私にも九州の仲間たちが頻りに開いている、30周年の実行委員会に出席する機会があった。彼らは真剣であった。熱心であった。30周年を迎えるについてこの集会が日本AAにとって、大きな時間的なランドマークになることを願って、私も一人の仲間として行動していきたいと思っている。

林

AAの愛とサービスの輪

～中部・北陸～ グループが目指すもの

7年前、精神病院の中で目覚めた時よく分からない私がいまいましたが、同室にいた仲間によってAAミーティングに連れて行かれたのが私のAAの始まりでした。

そのころの金沢グループは、市内の中心にある教会をはじめ、4ヶ所ほどのミーティング場があり、水曜日は病院メッセージの日、毎月1回はビジネスミーティングの日で、メッセージとビジネスミーティングの違いもよく分からないままに、すべて出ていました。外から参加している仲間も同じだったと思います。ミーティング場でのセッティングから後片づけまで全員でやるものだ、暗黙の内に教えられていたと思います。

金沢グループのサービス活動は、月の初めのビジネスミーティングで色々なことを決めることから始まります。半年に1度のグループチェアパーソンや会計、書記、ミーティング場のチェアパーソンの係や毎月の係としてメッセージのチェアパーソンなどを決めることなど、ビジネスミーティングがグループの運営方針を決めていく場だと分かったのは、言われるままにサービスを覚え、しばらく時間が経った後というお粗末なものでした。

病院のメッセージは義務化されたきらいがありますが、それでも、そのうち「何のためなのか」ということが分かってくればそれで良いと思っています。私自身、病院メッセージには力を入れています。なぜかと言うと、グループは常に新しい仲間の手をさしのべ仲間を増やしていかないと、グループ自体の存亡にかかわると思っているからです。また、金沢グループでは年2回のイベント（オープンスピーカーズミーティング、ステップミーティング）を開催しています。これらを開催していく段階で仲間との交流はもちろんですが、行政や病院などの関係機関との交流に力を入れています。交流によって新しい仲間の情報をもらい、手をさしのべていくことに弾みがつくからです。

AAで習った、「サービスは奉仕」「無償でもらったものは無償で返す。」この精神自体がなぜか薄らいできているようです。また、AAは組織ではありません。共同体のほうです。地域のサービス活動の場などでは、なぜか「サービス・マニュアル」が先走りしているように思います。また、伝統を使い間違っているようにも思います。伝統には「各グループの本来の目的はただ一つ、いま苦しんでいるアルコールにメッセージを運ぶことである。」とあり、グループが何を目標さなければいけないのか記されています。

「マニュアルだけが先走りしている」という言い方は、私の方が違うのかもしれませんが、でも、何か考え直さなければいけないように思います。

石川地区 AA金沢グループ カッチ

常任理事会主催の2006年「広報&病院施設フォーラム」の開催地域として、中部北陸地域より6月6日に立候補がありました。皆様にお知らせいたします。

病院施設担当理事、広報担当理事

～関東・甲信越～

「愛とサービスの輪」というテーマを頂いてまず思ったのは2年くらい前から非常に悪い健康状態で入院手術と続きサービスも思うように行動できずにおりましたが、自分なりに感じたことや気付いた点など書かせて頂きたいと思います。私は千葉地区の一人のAAメンバーとしてミーティングに参加しております。千葉地区は9グループで活動していますが、各グループのメンバーは少人数であり従ってメッセージ活動は何かと苦労が多いと思われます。サービスって何をすればいいの？何も分からない所から始まりグループの代議員、地区委員会に出席するようになりましたが、代議員の役割がすんなりとなじめず、喜びや責任を感じるより義務感で参加し、それもサービスだと思っていました。数年続けている間に自分の役割を受け入れることができメッセージを運び続ける経験の中でなんとなし、これが喜びなのかなあ、と思えるようになりました。まだ苦しんでいる仲間との出会い、分かち合えること、それは病院や保健所や治療機関に行くことだけではなく、毎日のミーティングを通して回復のプログラムを運び続ける責任がメンバーにはあるのだと思います。自分のソプラエティを守るためには、手のひらから溢れるばかりの愛を伝えなければならぬし、これがAAの愛の手なのだと信じ、サービスに関わるようになって得られるワクワクするような喜びを多くのメンバーに伝えることを精一杯大切にしたいと思います。でもいつもワクワクしている訳ばかりではなく、厭な事も苦しいときも悲しみも当然あるわけです。でも自分が今必要とされていることを喜びとして受け入れられます。そして今日一日が無事に通り過ぎ、限りなく遠い明日に会えることを祈りながら、感謝の中で眠りにつけるのです。

千葉地区は月1回の委員会が行われていますが、6グループは比較的手近な場所にありますが、3グループは同じ千葉県ですがとても離れた遠い場所にあります。地区委員会に9グループが揃うことは多くありません。地区委員会の責任は各グループやAA全体の情報を伝えることですからできるだけ多くのグループが参加できるように地区全体で伝統に基づいた良い案を分かち合いたいと思います。私にとって役割は受け入れるのが大変で「他にメンバーがいないから」とか「仕方がない」とか愚痴ばかりが多く苦痛でした。サービスは愛のプログラムと言われても、意味もわからず只仲間の後からついて行くだけでした。回復にたどり着く最初の行動としてプログラムのABCを仲間から学びました。スポンサーシップが自分にとってどれほど大切なことか、帰るところがあるホームグループが心を落ち着かせ癒されているか、酒の中でモミクチャになり誰か人を恨み、悲しみの中でやっと生きていた私が、今スポンサーや多くの仲間の中でゆったりと過ごすことができている。

Aは毎日のミーティングに出ること、Bはスポンサーシップが不可欠であること、Cはホームグループを決めること。回復に向かって全てプログラムのABCからスタートしました。心が救われた時、サービスに対して私の中で変化がおき、自分のサイズを受け入れ、今できるサービスをメンバーと共に喜び、そして責任を持って謙虚に続けたいと思います。

千葉地区 古川

AA日本ニューズレターNo. 112

編集・発行：NPO法人 AA日本ゼネラルサービス（J S O）〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4 F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.aa-japan.org>